

2015年6月30日

2014活動報告号

Vol.007



日光門前 まちづくりかわら版

発行 NPO法人 日光門前まちづくり
事務局 NPO法人 日光門前まちづくり事務所
〒321-1405 日光市石屋町418-1
mail: nikkomonzen@gmail.com
同法人 編集チーム

まち歩きガイドツアー「日光ぶらり」開催中！！



稻荷町の虚空蔵尊や上鉢石町駐車場からの大谷川や山々の眺め、下鉢石町の新谷など歴史の痕跡やまちの裏側を紹介しています。また、本番以外にもガイドやスタッフでまちを歩き、調査発掘作業も行っています。▶



▲2014年秋のライトアップ日光にて「ナイトツアー」も開催しました。

コラム：なぜ「まち歩き」なのか

日光ぶらりガイド
日光門前まちづくり事務局長 小池秀明

東町の街並み整備がスタートして10年。日光の玄関口も大分綺麗になった。しかし、まちが綺麗になったので、まちづくりはこれで終了！では決してない。むしろ本当のまちづくりは、ここからがスタートである。仏作って魂入れず。整備された街並みという仏様を作つて終わりではなく、そこに魂を入れる作業を進めなければならない。その一つの手法が、「まち歩き」だ。日光にとって、世界遺産・二社一寺は誇るべき素晴らしい財産だが、一方、そこに通ずる参道でもある東町、そして西町も含むまちなかはどうだろう。これも私達の大切な宝物ではないだろうか。足下にあるがゆえに普段は気づかないものでも、あらためてぶらぶらと歩いてみると、気づくこともある。地元民として、観光客として、それぞれの視点で、まちを歩いてみよう。隠れている、眠っている宝物を探してみよう。そこに光を当てれば、日光の魅力はますます高まっていくだろう。

「長崎さるく」を視察しました



2014年7月、
まち歩きガイドツ
アの先駆けであ
る「長崎さるく」
を視察・体験して
きました。

①市民ガイドが自らの言葉で案内する、②歴史のみに特化しない、特にこの二点の重要さをヒシヒシと感じました。長崎も「有名な観光名所」がありますが、観光と直結しなかつたであろう「まちなか」を案内するコースがいくつも設定されており、仕組みなどもお手本にさせていただきたいと考えております。

国道119号の整備事業 石屋町区間の整備が完了しました！



日光門前のメインストリートとも言える国道119号の拡幅事業が進行中ですが、第一工区である東武日光駅前の松原町からスタートし、第二区間の石屋町工区が終了しました。

1工区に概ね5年の時間をかけての事業となっています。綺麗に整備された区間を、今春4月16日・17日に行われた日光弥生祭付祭で家体が巡行しました。（右写真参照）

石屋町区間の最初にあたる部分には松原町同様に龍の街路灯も設置されました。灯袋（ひぶくろ）には石屋町の町印（ちょうじるし）の「丸に石」の印が入ります。（左写真参照）が入ります。

空と山並み、そこに形づくられる家並みと道路。ハレの日に繰り出される華やかな家体がつくり出す風景が、伝統を受け継ぎながら現代のスタイルを模索する“まちづくり”“まちなみづくり”であることをよく伝えています。夜は街路灯にあかりが点り、家体の提灯や町印（各人が手に持つ提灯）と共に演。提灯からのデザインモチーフであることがわかりました。また、それらのまちなみとの親和性も確認できました。



今年4月に行われた弥生祭の様子。新たに整備された通り空間を花家体が通り、まちのハレの日の景色が一層映えるものとなりました。
(日光土木事務所撮影・提供)



ワーキンググループ継続中▶

東町ワーキンググループ会議は継続開催されています。現整備区間である御幸町の町並みについての情報交換や議論も活発に行われています。

コラム：引き続き課題となるまちなみの「連続性」と「調和」

日光門前まちづくり理事長 岡井健

整備事業の2工区目となる石屋町区間では、いくつかの新たな店舗も生まれた。本業の他に間口を割って他店舗に貸す例も見られる。また、この事業を機に「職・住」のうち、離れていた住まいがまちなかに戻ってきた例も数件見られる。

整備事業終了区間においては、空間の魅力アップが引き続き求められ、現整備区間やそれ以降の区間では「統一」ではなく「連続性」や「調和」を目指したまちなみづくりが望まれる。

「まちなみ」は気候や風土はもとより、「暮らし」や「その土地の人々の考え方」の現れであると言える。観光も暮らしや人と接近してきている。整備事業に当たり「我々日光門前の暮らししが一体何であるか」を、まちづくりで掲げる「祭（いの）りのまち」に照らし合わせ、今一度見つめ直す必要があるのではなかろうか。